



飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

3/2

行「飛騨市伝承作物」の認定と、伝承作物の調理レシピを発表 真ねぎと酒造好適米ひだみのりを新たに認定

「飛騨市伝承作物」の今年度の認定式と、伝承作物を用いたレシピの作成などについての活動報告が行われました。

市では、市内で50年以上前から栽培されてきた作物を「飛騨市伝承作物」として認定し、その味わいなどの特徴や地域に根づいた歴史などを市民へ広く情報発信して利活用を進め、地産地消や地域振興などにつなげる取り組みを行っています。

今年度は古川町沼町周辺で栽培されてきた「行真ねぎ」と、酒造好適米「ひだみのり」の2品目を認定。「行真ねぎ」を栽培している井之口忠彦さんらに、都竹市長から認定証が手渡されました。井之口さんは「私が物心ついたころから栽培しているので、最低でも三代にわたって50年以上つづけている。他の種もあったが、この種だけが残った」と振り返り、「これまで『飛騨ねぎ』として出してきたけど、これからこの銘柄で売りたい」と話してみえました。



3/2

地域 古川町の重山さんが岐阜大学医学部地域医療コースへ進学 地域の医師としての活躍を期待

カメラ 特レポ

医師不足に悩む地域の医師確保のために設けられている岐阜大学医学部地域枠「地域医療コース」に、重山櫻介さん（飛騨市古川町）が合格したことを受け、市役所で都竹市長と飛騨市民病院の黒木嘉人管理者兼病院長から激励を受けました。

同コースは、都市部への医師偏在の打開策として県が創設したもので、地域医療に貢献する意志のある人を対象にしています。原則として出身圏域で初期臨床研修を修了後、引き続き県内の医療機関で7年間業務に従事します。

都竹市長は「地域医療を目指して学ぶいいモデルになります。医師は大変ですが、誰でもできる仕事ではありません。大いに勉強してください」と激励。重山さんは「高齢化が進むにつれて医師不足が深刻になると言われています。飛騨市のような過疎地に最大限の医療を届けられるように勉強したいと思います」と応えていました。



3/5

高 吉城高校生が「スマートフォンの使い方」冊子を作成 高齢者に向けて分かりやすく紹介

カメラ 特レポ

吉城高校の生徒がスマートフォンに不慣れな高齢者のために「スマートフォンの使い方」というパンフレットを作成しました。同校のE S D(地域課題探求)という選択科目の中で、4人の生徒（國定穂実さん・幅野蓮音さん・河合優海さん・井之口泰平さん）が取り組んだものです。

4人は、高齢者がいる生徒の家庭からとったアンケート結果から「タッチ操作が難しい」「画面の文字が小さい」といった点が壁になっていることを知り、QRコードの使い方や迷惑メールの対処法などと一緒にパンフレットに記載しました。

井之口さんはスマホを手にしたことがない高齢者に向けて「コンピューターには抵抗があるかもしれませんが、便利なので一度使ってみてください」と呼び掛けました。パンフレットは市役所・各振興事務所等で無料配布しています。



3/13

再利用してお得！ごみの減量化にも

特レポ

子ども服やおもちゃなどを無償で提供する「リユース品譲渡会」が古川町公民館と神岡町公民館で開かれました。

提供されたのは、サイズが合わなくなった子ども服や使わなくなった子育て用品、遊ばなくなったおもちゃなど、あらかじめ市民に呼び掛けて持ち込まれた物で、会場のフロアいっぱいに並べられました。

子連れの夫婦や友人同士らが来場し、服や帽子、運動靴、学用品、スキー、おもちゃなど思い思いに品選びを楽しみ、お気に入りの服を見つけると子どもの体に合わせてサイズを確かめたり、いただいたおもちゃを握りしめて笑顔を見せる子どももいました。会場を訪れた今井久美子さんは「子ども服は1、2シーズンしか使えませんが、次々とは買えないので助かります」と話していました。



3/13

成果報告会と漫画『天地を翔ける』の発表を行う

国史跡、国名勝に指定されている神岡町の江馬氏城館跡などにまつわる調査・研究の成果報告会と、江馬氏の歴史などを分かりやすく紹介する漫画や資料などを掲載した冊子『天地を翔ける—江馬氏城館跡のすべて』（飛騨神岡街づくり実行委員会 編集・発行）の発刊を記念したイベントが、神岡町公民館で開催されました。

飛騨市の学芸員3人が、文献研究や発掘調査などから判明したこれまでの成果や今後の課題などについて発表。江馬氏にまつわる歴史や庭園文化、山城の分布と構造など多岐にわたるテーマを、写真や動画を交えながら詳細に解説しました。

また、江馬氏の人間ドラマを描いた漫画『天地を翔ける』について、シナリオと編集を担当した帰家圭吾さんが制作に至った経緯などを紹介。「地元の小中学生にも読んでもらい、地元のことを知ってほしい」と話されました。



3/25

他「ヒダスケ！」が中部の未来創造大賞を受賞

市が取り組んでいる「ヒダスケ！—飛騨市の関係案内所—」が、「第2回中部の未来創造大賞」で大賞を受賞し、市役所で授与式が開かれ、中部の未来創造大賞推進協議会の渡邊悌爾表彰委員長から都竹市長へ表彰状と盾が授与されました。

「ヒダスケ！」は、市民の困りごとや地域課題に、全国の皆さんからのお助けをいただいて課題解決と地域内外の人の交流を創出する取り組みです。

渡邊委員長は「今後このプロジェクトをさらに発展させ、豊かな地域づくりに貢献していただきたい。他の地域からの関心も高く、私どもも大変期待しています」とあいさつ。「ヒダスケ！」に取り組んできた市職員の上田昌子さんは「受賞をきっかけに活動を知ってもらい、どんどん輪に入っていきたい」と受賞を喜んでいました。





3/26

大 市内で大学設立を目指す(一社)飛騨高山大学設立基金が報告会 大学名称は「Co-Innovation University」(仮称)に

市内で大学の設立を目指している(一社)飛騨高山大学設立基金が、同大学の目指す教育理念や開学前に取り組んでいる実証実験の成果などを報告する「Co-Innovation Conference 2022」を開催しました。

学長候補である宮田裕章さんが、申請する大学の仮称を「飛騨高山大学」から「共創」を意味する「Co-Innovation University」(コー・イノベーションユニバーシティ)へ変更すると発表されました。また、地域との絆を体感しながら価値観や経験を深める学びを行う独自の「ボンディングシップ」についても詳しく説明があり、実証実験

として行われた7つのプロジェクトのうち、飛騨市と北海道札幌市での事例が発表されました。分科会も行われ、同大学が掲げる「共創」や「ボンディングシップ」についても熱心に意見の交換が行われました。



3/28

被 中北薬品(株)と市が災害時の応急生活物資供給などの協定を結ぶ 災時の生活に欠かせない物資の確保につなげる

中北薬品株式会社と飛騨市が、「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を締結しました。締結式には同社の森厚俊常務取締役と都竹市長が出席し、協定書にサインを交わしました。

今回の協定は、市内で地震や風水害、大火災などの災害の発生や、感染症の流行、またその発生のおそれが高まった場合、市の要請に応じて、同社が確保している食料品や飲料、マスクや消毒液、医薬品など被災者の生活を支える物資を調達、供給するものです。

都竹市長は「いざという時に一番大事な医薬品や医療資器材、食料などの供給についてご支援いただけるというのは本当に心強い」、森常務取締役は「この地域のまちづくり、健康づくりのためにできることについてもお話しさせていただきたい」などとあいさつされました。



3/31

さ 北京パラリンピック日本代表の神岡町出身・岩本啓吾選手が出場報告 さらに体力を付けて、次大会への出場めざす

「北京2022パラリンピック冬季競技大会」クロスカンリースキー競技に日本代表選手として出場した神岡町出身の岩本啓吾選手が、都竹市長に出場の報告をしました。

岩本選手は3大会連続での出場。今回は、男子20キロクラシカルで13位、男子スプリントで22位、男子12・5キロフリーで15位の成績を収められ、また男女混合リレーでは7位入賞を果たされました。

この日は結団式の際に着用した日本代表のブレザーとネクタイ姿で来訪。「会場は日差しが強く、日中の気温も10度ほどまで上がるなど体感的にすごく暑くて体力を消耗し、脱水状態になりました。人工雪が融けたり凍ったりを繰り返してコースのコンディションも悪かったです」などと振り返り、「走り込んで体力をもっと付けたい。行けるところまで行きたい」と次の大会出場への意欲を燃やしていました。

